

畫本西遊全傳

二編

五



47  
へ遠21  
2500  
40-15





汝未前さだ小こ多た路ぢを用もちけよ六怪ろくがい唯ただ々々々々前まへ小こ多た路ぢを用もちて  
わく洞ほら口くちより六個ろくごの妖怪やかい々々々々報はつぐんを紅孩こうがい兒ご急いそぎに洞ほらを出で  
く迎接むかひ行者ぎやう者しや拽ひ兩りゆう大だい歩ぽ門もんの裡うち小こ南なん面めん小こ坐ざく當あた正ただ小こ居ゐる妖まじ  
王おう跪ひざま拜まがしく下くだ手て小こ就す行者ぎやう者しや曰いわ我われ見み我われを繕つくままく何なにもも余あ系けい妖まじ  
王おう曰いわ孩こ兒ご昨きのう日ひ唐たう僧そうを捉とけける他た八はち十じゅう世せ修しゅう行ぎやう乃なり人ひとなりなり他たを塊くわい  
乃なり肉にくを吃くふ何なに八はち延えん壽じゆう千せん紀きととりり故ゆゑ小こ愚ぐ男なん一いち人にん受う用ようせせ特とく小こ又また  
王おうを繕つくままく日ひ々々享かうんん手て行者ぎやう者しや驚おどけけ一いち体たい小こ曰いわ唐たう僧そう乃なり孫そん悟ご空くう  
ととりり者しや是こゝを保たもつつ西さい天てん小こ往わう經きやうををととる人ひと小こああるる妖まじ精しやう曰いわ正ただ小こ是こゝ  
なり行者ぎやう手て搖ゆく曰いわ莫な菘そう々々々々那な孫そん行ぎやう者しや八はち神しん通たう廣くわう大だい變へん化か支し端たん  
他た曾そう天てん宮きやうを闹なす何なに玉ぎよく帝てい十じゅう万まんの天てん兵へいを下くだして也なり於お他たを捉とめめ  
し不能あ汝なんぢもも小こ他たを吃くむ為ためととりり早あく送お出しくく他た小こ還わせせ妖まじ

怪あや曰いわ王おう何なにゆゆ他たを長ながくくて自お己のこ乃なり威い風ふうを滅めしし也なり那な孫そん悟ご空くう  
孩こ兒ごと交まじ戦せんて兩りゆう番ばんも小こ我われ三さん昧まい火か小こ燒や敗やぶられ今いま早あくくつて  
門かど小こ吟ぎん喝かく小こ妖まじ們ら小こ追お追おまま々々々々慌あわ慌あわしく包ふく袱ふくをを去お下くだしてして外ほか走はりり  
且かつ故ゆゑ小こ又また王おうを繕つくままく唐たう僧そう乃なり活い像ざうを刀たう各かくををんんほほも小こ蒸か  
吃くんんとといいなり行者ぎやう者しや笑わらひ曰いわ我われ見み只ただ三さん昧まい火か有ある他た小こ勝しょうををれれの  
他た小こ七しち二に般ぱん乃なり變へん化か有あるを余あ余あ妖まじ精しやう曰いわ他た變へん化かを憑たももつつ  
しし我われももととりり他たを怒おこりり他た決けつして我われ門かど小こ入いりり能あははしし行ぎやう  
者しや曰いわ今いま日ひ小こ斯すのの心こゝろ易やすし我われ唐たう僧そう乃なり肉にくを吃くつつおれ  
いいも今いま日ひ小こ吃くまま余あ余あ妖まじ精しやう曰いわ何なにゆゆ故ゆゑ也なり今いま日ひ小こ吃くまま余あ余あ行者ぎやう  
曰いわ我われ斯す老らう年ねん小こいいもも小こいいりり汝なんぢが女め我われ小こ些せ乃なり善ぜんをを作つくるるを  
勸すすむむ我われもも小こ是こゝをを何なにゆゆ作つく善ぜんををせせ余あ余あ依よるる些せのの後あと戒かいをを持もつつ



孫行者紛  
牛魔王  
欺妖怪

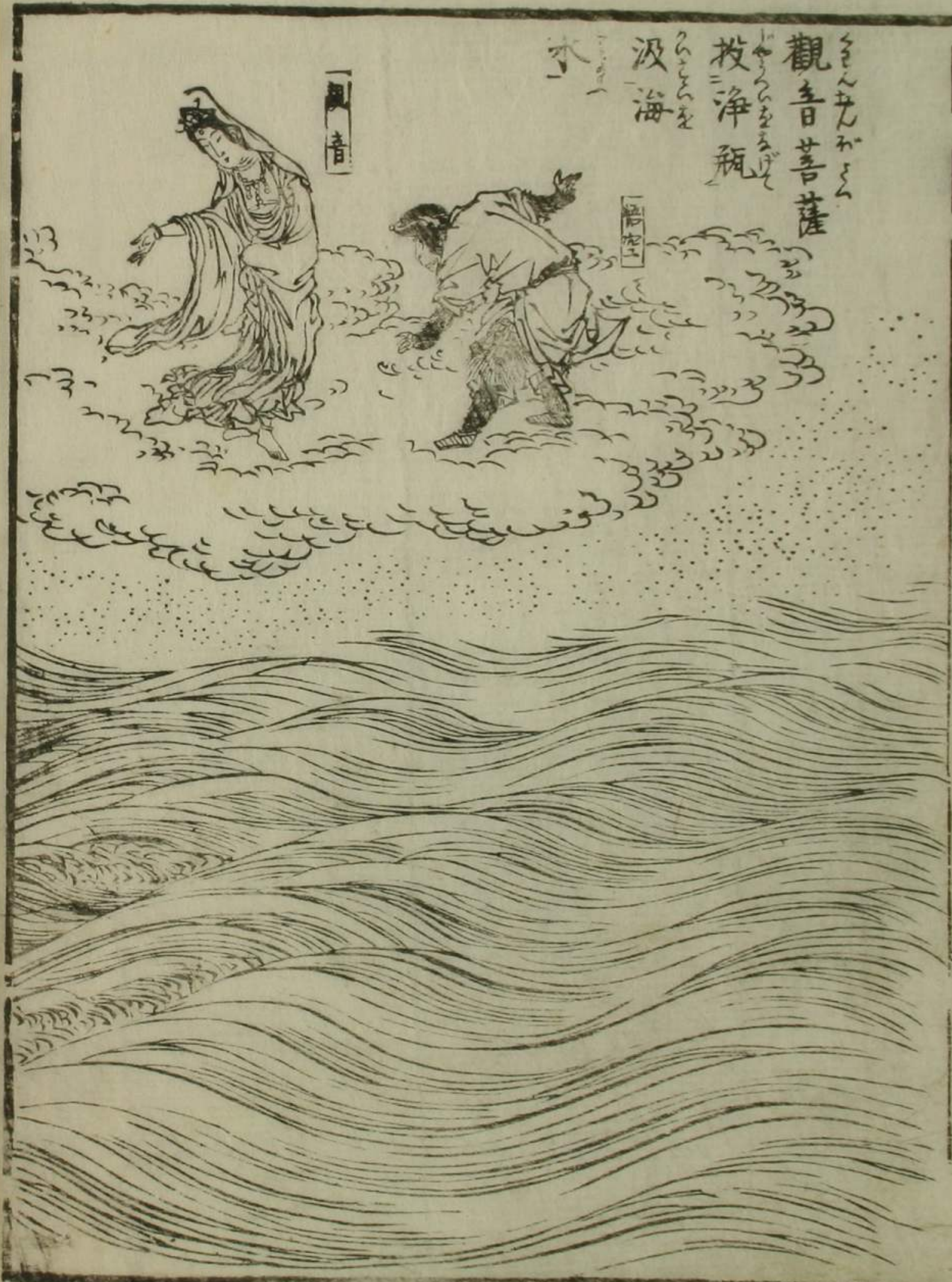
悟空







百  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十



観音菩薩  
投淨瓶  
汲海

観音

淨瓶

西遊記

蓮臺しりりり。菩薩身一縦しく中間小端坐し。祥雲を起し。普陀岩を離れ。行者惠岸より須臾刻の間に小號山はけり。菩薩淨瓶の口を授領し。喇々として水を出し。其音雷なり。又悟空を呼ぶ。他が手及出させ。揚柳の枝を甘露水小蘸し。介乃迷う字を書し。行者小教く曰く。汝這拳を挫き。往く妖猪と戦ひ。偽り敗る。我面前へ来き。他より一度汝を追ふ。掌成開たり。足せ。那必然住る。成忘ま。追き。行者傘を領し。徑小洞果のり。棒を揚る。洞門を下とち破る。小妖發走り。今斯と報ら。妖王大の怒。大太鎧を挺。洞を跳出行者を見。罵り。曰。這濊猴无礼なり。數回の敗績。由懲む。尚き。我大門を破る也。行者曰。汝早く我師又を送り出さ。再度門を破り。妖怪

大に怒り。長鎧を縛り。刺り。蒐る。行者棒を奉り。相迎へ。戦ふ。四五合のり。哩王敗る。逃る。妖怪立住。我何ぞ汝小賺され。長追ら。我先飯。唐僧を刷洗し。後汝を捉拿し。行者他を哩り。曰。好兒子。大看看。你哩。你来。那怪行者。小哩。嗔怒。一声喝。面前小走り。到。鎧を上。又刺り。行者再ひ戦ふ。五六回。列。逃る。拳を兩なり。妖怪を招た。那。心。迷。乱。せ。れ。我。を。心。追。ま。る。行者。妖猪。を。鉤。出。し。早。く。身。を。菩薩。の。金光。乃。影。小。隠。れ。妖怪。追。進。し。睜。眼。小。菩薩。を。見。罵。り。曰。汝。猪。行者。を。投。ん。と。き。れ。る。も。如何。方。善。菩薩。を。觀。音。是。成。安。ら。し。一。言。由。吾。玉。守。自。若。し。端。坐。し。妖。怪。大。の。怒。り。劈。心。小。鎧。を。奉。り。刺。す。小。善。菩薩。早。く。金光。と。變。り。九。宵。空。内。小。走。り。昇

百選七二編卷五



行者惠岸めぐみも小空こくう申まを小こ在あり是こゝを見ぬに那な妖まじ笑わらひ曰い。渡わた猴ま我われと  
 幾いく度たび交まじ戦せんても勝かちつる能あたり。又また去まり膿うみ包づ菩薩ぼさつを結むすきこるにく  
 も。我われ一ひと鎗やりを吃くしる影かげも形かたちもたたく逃に失はれる。ままのままま子こ蓮れん臺だい  
 へへ下くだりし可あ笑わらひし且かつ我われ上あつく坐ざせんしる自みづから菩薩ぼさつを受けり  
 手てを盤ばんり脚あしを盤ばんり蓮れん臺だいの中間ま小こ坐ます。其その因ゆゑ菩薩ぼさつ揚あ柳やなぎの枝を  
 持もつ指さし招まむに。今いま逆さか花はな彩さい祥しょう光こうの千葉せん蓮れん臺だい忽たちに三十じゅう六じゅう六じゅう  
 把とりて天てん罡ごう刀とうとなり。妖まじ怪かいが両脚りやうあしを穿うちぬけり血ち流りくに任まかす妖まじ大だいの小おおど  
 うり牙きばを咬くむに疼いた痛しみを忍しのびし火か焰えん鎗せうを舍あげし刀やを將しやうりし搜さりし捨すてし  
 ちち菩薩ぼさつままに兄弟あにを念ねんむに。那な刀や脚あしを貫つりしまま鉤かぎ針はりのままま曲まぐに  
 纏むりし能あたりし茲いま小こ於おりしの悪怪あくかい疼いた痛しみ禁きんじり哀あはれし叫こゑびし  
 曰い。菩ぼ薩さつ免めんさまめし我われ眼まなこ有ありし腫はれし廣ひろ大だいの法刀ほうやをままま受うけり

く元もと礼らいをなせり願ねがひし無む慈じを乞ふに。我われ姓せい命めいを乞ふに。饒にぎりひかり再また  
 び悪業あくごうをなすに守まもりし法ほ門もん乃すなはちに戒かい行ぎやうを保ちし。いいといひしれど菩薩ぼさつ行ぎやう者しやと  
 ちち小こ九く宵せうを下りし曰い。汝なんぢ今いまの言小こ背そむきしままたた妖まじ怪かい洞どうを流ながしし  
 ちち小こ助すけけむ。長ながく徒弟ていとなり。いいといひし觀くわん音おん其その因ゆゑ柳やなぎ葉はを將しやうりし妻つま  
 ちち刺さ頭あたま刀やを近く進みし妖まじ怪かい頂ていの髪を今いま剃かりし。只ただ三さん个ごの格を  
 留とどめし挽ひ起たげし。三さん个ご乃すなはちに高たか角かく揪しゆ兒にを宜しく。汝なんぢ今いまより長ながく悪念あくねんを  
 断たげし我われ小こ奉ほう侍しやうせし。今いまより汝を善ぜん財ざい童どう子ことなしし。妖まじ怪かい是こゝを受けり  
 ちち大だいの小おおどり只ただ望のぞみし。八は疼いた痛しみを饒にぎりひかり菩薩ぼさつ點てん首しゆを手  
 持もつ指さしぐし一ひと声こゑ呼よぶに。天てん罡ごう刀とうを脱落だつしし童どう子こが身み軀く一ひと白しろくく  
 ちちあありし。菩ぼ薩さつ天てん罡ごう刀とうを拾ひろひし。惠めぐみし岸ぎし小こ命めい。天てん宮みやへ送おくりし返かへりし  
 ちち小こ重じゆう子し八は野や性せい。いいといひし定さだまりしし。腿ひざ脚あし乃すなはちに痕あとを疼止やめし。小こ付つくにおおりし



西遊記二編卷五



しころふ更ふ困るる無半茲小ありく童子菩薩の不可思議  
 法力を感歎し頭を低く心滅し正景小飯一々の赤世小至して觀  
 音菩薩の傍小侍立すと善財童子とて這紅孩児が更なるり  
 斯く菩薩行者小分付汝早く洞中小往く師又八戒を救ひ西天  
 小赴よと命し多し船も善財童子を引領辭雲小駕く普陀洛  
 山へぞより歩ひたる。却就汝僧小く林間小有く行者が音信を  
 待ども曾とくりきりさるる。又奈何なる難小遭らんと安ん心も  
 かりく小忽ち雲頭より孫行者觀音下りて下りて。汝僧むく  
 其故を問。行者一を鏡多れ汝僧大り小とてい。兩個洞を跳りて  
 大雲洞小入群妖を拂ひ尽し。三藏八戒を解放し。觀音を待  
 る妖人を救りしるを一遍鏡多れ。三藏感洞小むせり南方を礼拜

して沙僧洞内より飯を安排師徒飽よく吃し。支し四衆號山  
 を主出て西を志し。行り數月小女と流るる大河小行るる  
 其水黒くく水勢箭を射がく。三藏馬をとり先徒弟小向い這  
 川何小とく。如斯黒くや。向八戒曰。是家濛乃葢缸とく。るる  
 汝僧白不。是源乃里小筆墨を洗わく。行者腹を立。汝小記  
 道をのりてを休く。只師又を渡とて工夫をせよ。三藏曰。這河是女  
 の竟ありや。八戒曰。凡十里乃寬あり。三藏曰。汝木三人計數し  
 る維もく。我を死し。行者曰。八戒師又を死。八戒曰。不。好  
 り。我師又を死し。雲小駕を三尺も地を放り。を不。常小入  
 り。今師又を死し。往く。せ  
 我の時連小成り。水小墜去と。師徒是彼商議。き居る所小

只着二個上流より小船小埠下りきこる者あり。三藏と云ふは草ふか  
 船きこり呼ぶ兼るこるを憑ぬ。汝僧手火拳埠船の来り  
 我亦をこり深く思を謝とぞ。呼揃公是をさく船を岸  
 迎ふ近著く曰和尚們我這船小く。多の人乗る能ハ各ハ  
 人数ハ此船おこりあり。能ハ三藏此船をこる小一陸乃木  
 頭を刻ぐ中間小一个の倉口あり。船小兩人の人を乗合。三藏位  
 弟と南蕨一奈何せんといふ。汝僧曰兩個は兼る二度おつ、  
 らい安うんハ戒つ師又を杖と船小兼先へられ我ハ師をこ  
 番乃船小のり渡らハ戒せ。三藏を馬より下り船り  
 杖の已も移まぬ。揃公撐用平埠稍中流小のり。忽と二陣  
 う怪風吹出し浪成捲波を翻く。遮天迷目十分利害。つと

見らる小揃公ハ及む。唐僧ハ戒船より浪小捲る影  
 形も成行り行者汝僧ハ岸小有る大少驚た。驚れも方  
 使れし行者汝僧小向ひ我ハ小那揃公初より不正の氣あり。他  
 風空弄く師又を水中へ把去り。汝僧曰師兄茲小馬  
 と行李を守り待我水中小尋きこると遂小偏衫をぬた  
 室杖を提ぐ水路を問進ると走る処小只見一坐乃真直石  
 門外小八個の大字あり。是衡陽峪里水河神府と鎬付。汝  
 小裡面小統結とる。汝僧是を中。他曰君年幸共せ。小  
 今日方ふと這和尚を捉はり。乃是十世修行の好人。他曰  
 肉を吃し死ハ使し長生不老なりと。汝僧曰鉄筆を把く  
 指きこれ。唐僧を鉄筆の上より蒸熱し。身姑を清き。他

小受用しき壽を暖へ。沙僧是成皮す。大い小怒りて宝杖を  
 舞平く門を乱さす。日濃物性命を借も快く我師又を送り出さ  
 小妖驚え斯く報いられぬ妖怪急し一振る竹節鋼鞭を合手に  
 門小走り出濁し。曰汝何者かれを我門小きくし。此をさす。汝  
 僧白。汝淺怪前小玄虚を弄我師又を將し搥去り早く送之  
 とい。汝が性命を饒さす。那怪呵。い。この道和尚。不知死活。唐僧  
 ち我拿し蒸熟し客を結く。小下酒小せん。子。汝も又合手く  
 一幾小吃く。汝僧暴躁宝杖を掬く。汝て。那怪物も鋼鞭  
 を拳く相迎。交戦し三十余合。汝僧暗小多り。這怪是我敵  
 手小あし。連も勝り。汝は。小偽。他を引半。哥を呼。て。一  
 けし。虚舎了。敗走。那怪嘲。い。汝去。去。我敢。追。客を

踏く汝師又を蒸吃し。早く門内小引。さ。沙僧力。か。氣呼  
 々々。水を蹴。上。出行者を。前。を。説。行者。曰。不知他  
 ハ何の怪。那の。二。の。男。ハ。何の怪。と。い。さ。未。了。小見  
 湾裡より。一。個。の。老翁。走り。出行者。が。前。小。跪。下。磕。頭。行者。曰。汝ハ  
 是何者。老翁。涙。を。流。し。曰。我。這。河。の。伯。也。那。妖。旧。年。五。月。西  
 洋。より。這。大。湖。小。き。く。を。さ。り。小。神。と。交。闘。小。神。年。老。く。他。小。て。は  
 こ。く。不。能。殺。小。他。が。為。小。我。黒。水。神。府。を。奪。れ。奈。何。と。い。は。こ。く  
 不。能。送。小。海。内。小。往。し。許。す。小。他。原。来。西。洋。竜。王。の。聲。か。ら。故。小。不  
 取。敢。却。く。他。小。讓。上。へ。住。し。今。大。聖。此。小。り。特。小。き。く。願  
 ち。望。し。ハ。我。為。小。寛。を。報。し。行。者。曰。然。ハ。西。洋。竜。王。罪。有。汝  
 僧。ハ。茲。小。待。我。海。中。小。令。先。竜。王。を。捉。し。他。小。教。く。此。怪。物。を。搗



アケノヲクミヤセハチ  
悟空撃殺  
黒臭猪  
得蜜書



河伯深く大恩を感じて行者と云ふる雲小駕一徑小西洋大海  
 小舟の避水の訣をいふと波浪を用いて往処小忽ち一個の黒魚  
 精小往逢う他一個の精書画兎を捧むきり行者耳裡より鉄  
 棒を引出し一歩小歩殺し画兎を同く小裡小一張の筒帖あり  
 上小黒甥龜紫頭首啓上二舅教老聖下と書しりやと云ふら同  
 封しと云ふま今唐僧を獲けり実小世間小罕物たり甥あま  
 自ら不用伏せり舅又耶聖廻通小あり因て筵席を設あはじぬ  
 二秋を祝はんとす萬望車駕速小臨行を願し書しり行者歩  
 けりこの這廐供状を我小遊子と袖し小帖子て行処小早く巡水夜  
 刃望り急小言門小今斯と報む龜王教順忙しく出迎向り曰  
 大聖何らと云ふ此小未まらる行者曰特きく汝小清く酒を飲ん

たり先汝小刃をさる物ありと袖中より筒帖を取出し龜王小遊子  
 竜王是をり魂起魄散慌忙と跪下り曰大聖が怒を休せ  
 耶廐八是舎妹弟九人目り兎の兩を錯行する罪此更袖小より  
 魏徵小斬まらる者乃遺冒り舎甥かりゆ小他を黒水河小遣  
 性を難ひ真を修せしむ然る小不期ゆく小惡孽をなす小  
 竜をりら人を差しと他をとく罪を謝せんと急小太子摩昂  
 を換ぐ五百り壯兵を附属し汝往く小龜を捉へきれと命し  
 太子命を領掌すと云ふおり行者龜王小別り摩昂と  
 小兵を領し黒水河の水府小り摩昂も水族をいれ  
 妖怪小面會せしるを精那怪心疑り曰我黒奥精小投帖を持  
 し差し二舅を精小急末まらるず却り表兄りきりや皇

西遊記新巻五



の子細ありと銅鞭を帯りし門小立出表兄遠くきこるる  
 何れも用ひし呼はる摩身白。汝舅を繕く何れをなむと也。妖  
 怪が曰小弟よく舅爺の恩を報り此小住をばりしとてふ。露  
 しくり孝順をゆりて。昨日幸小唐僧を捉はり。他八十世修  
 行乃え鉢に他が肉を吃者。壽しとす。故小舅爺耶を請ひ蒸吃  
 しとちたり。大舅穿く喝く曰。汝不知死活。今し入唐僧乃大徒弟  
 毎天大聖より入者をちるる。五百年前天宮を闹せし豪傑も  
 今正果小飯く。殊行者とり。他神通变化究り。汝早く唐  
 僧八戒を饒し。尊く陪和せし幸あり。性命を全うとて。むを  
 ん。迷をとり。平岡あり。遅滞む。忽ち生を害ま乙。妖怪にて  
 大いふ怒。我は是汝と嫡親姑表なり。汝却く猴の右祖とて。妻

うね。汝他を恐るるも我の女も恐ま。お他り。きこる。我と  
 三合を闘を唐僧を還し。ばせ乙。か闘。不能。我一連小  
 他をも提て。一食小蒸吃。大舅罵く曰。這泼果无礼なり。我今又  
 王の命を奉り。特汝を捉小向ひ。り。遠小兩個英雄を逞  
 一戦す。二十手合。太子三稜間を闘く。妖怪が右の臂を二。間  
 小步下とて。妖怪堪ら。地小跌倒。其河海兵二。推し。繩  
 を將く。両手を背小。細鉄索を將く。琵琶骨を穿。岸小  
 引上り。行者。前小。居たり。行者喝く曰。汝も舅爺。汝を此小  
 在せ。性を養ひ。身を存せ。む。其令音小。不遵。怎麼水神  
 乃。毫を強占。勢ひ。小。兇行を。我師父。師弟を。捉。ハ。吞  
 煙。我此五棍。棒を吃。眼付。我。妖怪行者。勢ひ。吞

と頭を叩き罪を謝し。大聖願くハ小鼈の縛を饒し。汝  
河中より唐僧師弟を送りき。唐僧曰。大聖他を放し。水府  
を水府へ回し。又悪念を生ず。汝僧曰。我他を水府を去り。師又  
を迎へ。唐僧と河伯と歩連水中小跳令。進小水府より。小妖を  
歩退け。唐僧ハ戒が細を解去。水面小背出る。八戒那妖怪が縛らる。  
岸小在を急小起を上。行者其手をと。曰。他  
罪あり。と。教家賢父子の情黙止。汝他が罪を免せ。是  
白今既小師又師弟を救ひ。此れを小鼈ハ這窟を引連る。いり  
大聖ハ他が死罪を饒し。汝も家又ハ決し。罪を者。行者曰。  
如此か。汝他を領る。今尊小拜し。深く恩を謝せよ。と。  
中を尋唯。那妖を引立。往小西洋大海。小なり。河

ハ水府を奪ふ。三蔵師弟小深く恩を謝し。小神  
道を冥た。と。法術と起し。水次阻。上流をせ。小  
を領更。間小下流。水乾。汝を一大路を用。三蔵師弟  
大。小。西岸。行者。小。河伯の像。上  
流の水漲。以前。大河。と。か。り。小。なる。

法身元運達車力

心正妖邪度眷関

活流三蔵師弟。黒水河を過。行。女。同。小。春。の。天。気  
小。值。師。徒。路。上。の。景。色。を。遊。観。笑。語。行。処。小。數。万。人。の  
吶。喊。声。は。三。蔵。害。怕。曰。怖。空。邪。响。声。小。那。里。か。り。行。者。曰。光。輝。を  
し。け。い。り。と。身。を。動。く。空。中。小。の。り。淨。鉢。小。是。を。ん。一。些。の  
城。地。あり。那。城。門。の。外。小。一。座。の。沙。灘。あり。數。千。の。僧。人。擧。袂。徒。車。と





西遊記 卷之五

汝灘上の僧人を指定て曰他ろ車小棧処ろ的我家生活かり先  
 一應改めまゝ〜行者又其ゆを問道士曰當年雨を水ろの  
 付國王僧人を請て佛を拜し雨を祈しむる小那和尚亦空經を  
 念が不海夷後来我師又一到小雨を喚風を呼万民乃塗炭を  
 拔海了其付朝廷愆了〜那和尚を无用の者かり〜他が口を  
 折了追了他が度探脚賜を我們小賜し因〜後辺の住房未完  
 なるゆ〜小這和尚們小分付磚瓦木植木を拽運をせ房宇の  
 起蓋をたす只恐〜他が徒貧困〜及躲嬾我們兩們を著〜  
 查しむる所かり行者説を申了〜洞をかり〜貧道二個の叔父  
 あり出家剃髮〜僧となり〜這幾年家小〜す我多小祖上ろ  
 一派なれ六特き〜尋き〜未知此衆僧の中小あ〜んも知〜

折〜我往〜查し道士が白羅〜我們兩個去〜坐下〜汝汝灘小去  
 我小替〜一々查し只點〜五百ろ名數あ〜もあ〜ら〜中〜小〜り  
 汝が令叔あ〜我小道中ろ情をり〜他を放ち去〜ち〜行者思  
 を謝〜道士小別去〜往小汝灘小往雙関を過〜背夾を下ろ小  
 僧人〜各小跪〜頭を磕〜行者曰我ハ監工小あ〜手親的を言〜し〜  
 さま〜る者なり〜衆僧中〜個々頭を出〜一面を露〜〜あ〜ま〜擇出され  
 〜道ま〜ち〜れ面色なり行者大口開〜呵〜し〜し〜ひ汝小衆不長俊  
 怎麼不去〜〜那道士の傭工小よ〜るや衆僧亦曰是あ〜ろ深丸利害  
 あり這里の國王三個の道士を信仰し我小を滅〜し〜寺が折了度  
 謀を追拂ひ那仙長小賜〜行者曰那道士何ろ巧術有〜か國王  
 を誘動や衆僧白會燒〜〜丹を煉石を點〜〜金〜り〜或ハ雨



